

『国民参加の森林づくり』制度 事例紹介 ～地域住民によるヤマザクラ等の保護・再生活動～

下越森林管理署 業務グループ
主 事 山名 一得

地域の概要

●楡形山脈

～日本一短い山脈～

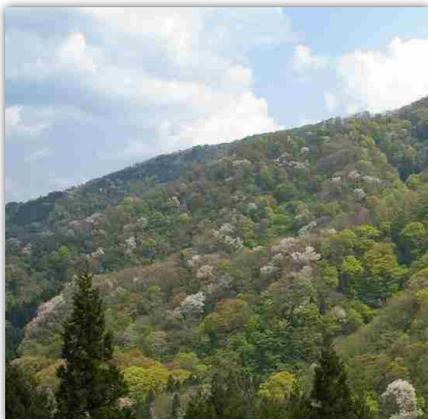
新潟県新発田市と胎内市にまたがり、北の鳥坂山から南の要害山まで、13kmに渡り連なる。最高峰は楡形山(568m)。

国土院発行の地形図上で正式に「山脈」と呼称される山地としては、最も小さい。

低山ながらブナ林や山野草に富み、眺望に恵まれ、中世の史跡も多く点在する。複数のハイキングルートが整備されており、入山者が多い。

山脈のうち、1,964.9haが国有林が占める。

右写真：大日裏国有林上空から撮影した楡形山脈全景



写真：新発田市ホームページより引用 <https://www.city.shibata.lg.jp/kanko/yama/1005083.html>

●楡平サクラ樹林

山脈の中部、大峰山の北側では、ヤマザクラ・カスミザクラ等のほか、それらの交雑等で生じた変種が40種類程度自生。春には桜の名所として知られる。

ここで発見・学名登録されたサクラが3種あるなど、学術上貴重な土地である。

昭和9年、一帯の国有林116haが国の天然記念物に指定された。

ふれあいの森の概要・経緯

●協定締結による国民参加の森林づくり

森林での体験活動等の実施を希望する国民に対し、フィールドとして国有林を提供する制度。

●ふれあいの森

上記制度によって設定する森林のうち、主な活動内容がボランティアによる森林整備である箇所を名称。

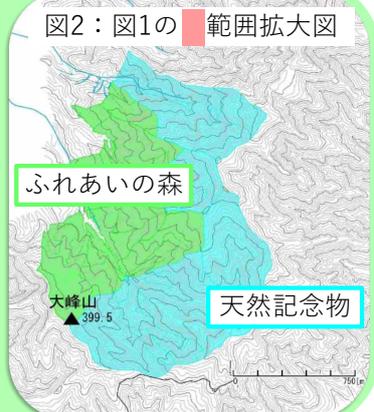
名称：楡平さくらの里

面積：72.57ha

協定相手方：
加治川さくらの里づくりの会

活動目的：
楡平サクラ樹林の保全

協定期間：
平成12年4月～



●これまでの活動内容

○現在の林相：サクラ老木(年々減少)
高木性広葉樹(ホオノキ・ナラ等)

薪炭利用等、人間の営為が消滅

林冠鬱閉・サクラ後継樹不足

H22年～ 年2回(春・秋) イベント開催 下刈り等を行う。

林床に光を当て、サクラの更新を促す

市・森林組合の支援+一般参加者募集 計20~40名

下越署からも職員数名が参加&ヘルメット・鋸貸出

H28年 林野庁長官より感謝状贈呈



H27年秋



H29年秋



H30年春

●課題

下越署：イベント時に伐ってよい木は、
直径4cm未満の雑灌木までと指導。

活動団体：既に生長してしまっている
高木性広葉樹も伐ってギャップを作りたい。

また、残存するサクラの老木は種子散布能力に衰え?

下刈りだけでは、抜本的改善
(サクラ幼稚樹の発生・生長)に至るには不十分。

新たな取組

●高木性広葉樹の伐倒除却(令和元年9月)

令和元年9月
伐倒予定木を白
テープで表示した



かねてよりの要望に応え、
下越署職員立会いのもと、
伐倒するナラ等を表示
→森林官が収穫調査
→活動団体が伐倒・残置。



令和2年10月
(植栽イベント時)
伐倒除却後の林内

両写真にて、左奥の黒っぽい
2本の木が、同一のサクラ。

●サクラの苗木生産

現地採取の枝で接ぎ木。

H24年から、幾度か育苗に挑むも、失敗してきた。
H30年には採取後、専門業者に育苗を依頼。

R2年、16本の苗木を確保。

●植栽イベント(令和2年10月)

例年下刈りを行っていたイベント開催のタイミングで、植栽も行った。

伐倒除却により生じたギャップに、前もって関係者が植栽位置を表示。当日、植栽方法の実演を経て、一般参加6名を含む38名が植え付けた。



植栽完了状態。
持ち込んだ篠竹で支柱を立てている。
個体差はあるが、写真のように人の背丈ほどもある大苗であり、今後の生長が期待される。

果たして、サクラの世代交代は成るか…?